

会期：令和2年9月30日(水)～11月3日(火)

会場：黎明館2階 第2特別展示室

鹿児島県歴史・美術センター黎明館が所在する鹿児島(鶴丸)城跡は、数地の一部に石垣・堀・石橋で構成される鹿児島県指定史跡「鶴丸城跡」を含み、令和2年3月には御楼門が完成しました。明治6(1873)年の失火と同10年の西南戦争で焼失以来147年ぶりに、鹿児島城跡に城が機能していた時代の様式の建築物が復元されました。これを記念して、鹿児島島の城郭を振り返るとともに、鹿児島城跡の歴史・文化的価値を紹介する企画特別展を開催します。



「旧御本丸御楼門前之景」(部分)[玉里島津家資料]

Let's take a break.

黎明館には、ゆっくりとリラックスタイムをお楽しみいただける場所があります。ぜひ、お立ち寄りください。



Shop & Café
CHIN JUKAN POTTERY 喫茶室

特等席で御楼門を堪能!

御楼門完成を記念して発売されたコーヒースセット(税込880円)は、御楼門や瓦をかたどった黒糖入りクッキーをはじめ、安納羊のジェラートとふくれ菓子までついてくる、まさに鹿児島を堪能できる一品。正面に御楼門がそびえる眺望満点の特等席から、目と舌で御楼門を堪能してみたいはいかがですか?



Restaurant
城山シーズニング

日本全国「発酵」の旅 **期間限定**

鹿児島は饅頭のスライス、秋田ならいぶりがっこのスライス—日本各地の発酵食品、試したことはありませんか?城山シーズニングでは、社長自ら全国の商品を取り寄せ、その舌が「美味しい」と認めた逸品を販売しています。北は秋田から南は沖縄まで、発酵食品で旅行気分を「味わって」みませんか?

*城山シーズニングは現在休業中で、再開時期については、ホームページをご確認ください。

Information

※新型コロナウイルス感染症の感染予防とその拡大防止のため、展示や催し等の予定は変更になる場合があります。最新の情報は、ホームページやお電話にてご確認ください。



黎明館
開館時間 9:00～18:00(入館は17:30まで)
休館日 月曜日(祝日の時は翌日)、毎月25日(土・日・祝日の時は開館)、12月31日～1月2日
観覧料 一般 400円 高・大学生 250円 小・中学生 150円 (年間パスポート)
一般 800円 高・大学生 500円 小・中学生 300円
※1年間の有効期間中、常設展示を何度でもご覧いただけます。
※障害者手帳の提示で無料 ※団体(20名以上)割引あり。*鹿児島県内に居住する70歳以上無料(令和2年度まで) ※鹿児島県内に居住する18歳以下は、土曜日は無料(令和2年度まで)
アクセス 鹿児島空港から鹿児島市内行きバス「金生町」から徒歩10分 JR「鹿児島駅」から徒歩15分 JR「鹿児島中央駅」から市電・バス利用 市電・バス「市役所前」または「水族館口」下車、徒歩7分 鹿児島市内巡回観光バス「薩摩義士駅前」下車すぐ 無料駐車場あり(普通車125台 バス20台)

鹿児島県歴史・美術センター 黎明館 〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号 ☎099-222-5100 FAX:099-222-5143

おすすめスポット

薩摩ベンチで過ごす時間

御楼門完成にともない、黎明館の前庭に10台のベンチが新設されました。うち2つは、板瓦をかたどったデザインで「丸に十の字」をあしらった「薩摩ベンチ」です。この薩摩ベンチ、御楼門建設時の端材のケヤキを利用して作られました。



ベンチに座って御楼門を眺めるもよし。たださわやかな風に吹かれるもよし。ゆったりと読書をするもよし。美味しいものを食べるもよし。あなただけの時間を、お楽しみください。



ホームページ、SNSで黎明館情報を発信しています。フォローして、ぜひチェックしてみてください。

Home page Facebook twitter Instagram

REIMEI

vol.38 No.1

Kagoshima Prefectural Museum of Culture Reimeikan
鹿児島県歴史・美術センター黎明館より「黎明」

御楼門完成

特集

Contents

特集 御楼門完成

企画展 「にほんの飾り・さつまの飾り」

黎明館に宇宙人襲来!? 学芸員EYES! 「ボゼ」 名称変更と黎明館の由来

館長あいさつ

人事異動

「年間パスポート」はじめました

鹿児島県歴史・美術センター黎明館 REIMEI 黎明 vol.38 No.1 2020年5月1日発行 編集・発行：鹿児島県歴史・美術センター黎明館 〒892-0853 鹿児島市城山町7番2号 ☎099-222-5100 FAX:099-222-5143 http://www.pref.kagoshima.jp/reimeikan/



鹿児島城は、薩摩藩初代藩主である島津家久が築いた城です。鶴丸城の名でも親しまれていますが、正式名称は「鹿児島城」であり、『三国名勝図会』（江戸時代後期）には、「鶴丸城」の呼称は、背後の城山の形が鶴が舞っているように見え、鶴丸山と呼ばれたことに因むと記されています。

鹿児島城は、山から麓にかけて城を築く「平山城」ですが、これは島津氏が鎌倉時代からの守護として、山城と館で構成される城館という武家の伝統や格式を重んじて築城したものです。慶長6(1601)年頃築城が始まり、同20(1615)年頃にほぼ完成したとされています。

築城当初は、かつて中世の上山城があった背後の城山に本丸、二之丸を置き、麓には館を置いて藩主の居所とし、三方を堀で囲っていました。また、館を中心に海側に向かって城下町が築かれました。

江戸時代の後半になると、本丸、二之丸は麓の居所を指すようになります。その鹿児島城の表玄関として館の正面入り口に建っていたのが御楼門です。二重二階造の木造本瓦葺きで、2階正面には連子窓(格子窓)、2階外壁は漆喰塗と芋目地のなまこ壁で仕上げ、鯨までの高さが約20mもある城門でした。

館造りで天守や重層建築を持たなかった鹿児島城において、御楼門はまさに城のシンボルともいえる建物でしたが、明治6(1873)年の火災によって、本丸の建物とともに焼失してしまいました。



▲ 絵図に描かれた御楼門
「鹿児島城下絵図屏風」(部分) 玉里島津家資料



▲ 礎石に残る柱の痕跡



▲ 伝統的工法 手斧仕上げ



▲ 伝統的工法 継手

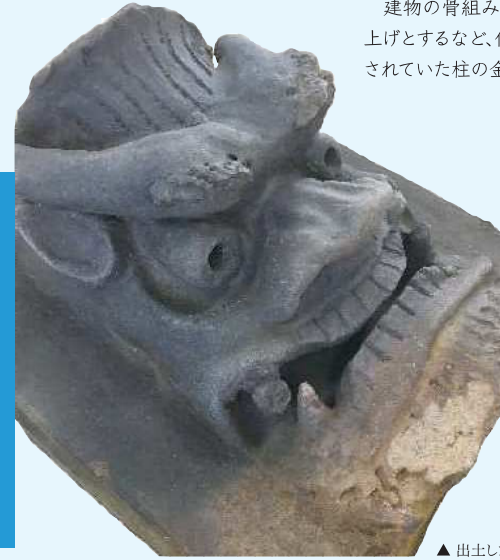
復元にあたっては、専門家の指導・助言を得ながら、明治初期に撮影された古写真の解析や、現存する礎石や石垣等の遺構、埋蔵文化財発掘調査の成果、絵図・史料等を検討し、可能な限り史実に忠実な復元に取り組みました。

建物の骨組みとなる木工事では、木材を継手や仕口を用いてつなぎ、敷梁は、手斧仕上げとするなど、伝統的工法を用いながら組み立てられました。鏡柱の太さは、礎石に残されていた柱の金物の痕跡から、約90cm×約70cmであったことも分かりました。

御楼門の屋根に葺く瓦は、発掘調査で出土した瓦を参考に紋様や大きさを決定していき、連珠三巴紋の軒丸瓦、唐草紋の入った軒平瓦などが製作されました。特に、瓦屋根の棟の端に据えられる装飾瓦で、建物の魔除けとして設置される鬼瓦は、発掘調査の成果から鬼面としましたが、これは鹿児島城の特徴の一つともいえるものです。

鬼瓦同様、魔除けとして屋根の大棟の両端に取り付ける鯨は、古写真の解析や他の城の事例を参考にしましたが、江戸時代後期に行われた御楼門の補修の際に、「唐金(青銅)のものに掛け替えた」との記録(名越時敏の日記『常不止集』)が残っていたことから、青銅製としました。

▼ 鯨と瓦(鬼瓦・軒丸瓦・軒平瓦)



▲ 出土した鬼瓦

特集

御楼門完成

令和2年3月、高さ・幅約20mの巨大な城門「御楼門」が完成しました。
147年ぶりに鹿児島島の地によみがえった御楼門。その歴史と復元への道をひもときます。



薩摩藩で最上格の城門であった、この御楼門を復元しようと、民間の「鶴丸城御楼門復元実行委員会」と鹿児島県は、平成27(2015)年に「鶴丸城御楼門建設協議会」を設立し、官民一体となって取組みを進めてきました。多くの方々から寄附をいただいたほか、江戸時代の薩摩藩による宝暦治水を縁に、鹿児島県と姉妹県盟約を締結している岐阜県から、友好の証として長さ約8m、幹回り約4m、樹齢300年以上もある大径木の岐阜県産のケヤキを提供いただきました。また鹿児島県湧水町等からも木材の提供がありました。

また、飾り金具である六葉は、国の伝統的工芸品に指定されている川辺仏壇の技法を用いて製作されています。

その他にも御楼門の礎石などの遺構を保全する取組みや、耐震強度を十分に保つための工夫もなされています。

このように、御楼門は多くの方々の御支援・御協力を得ながら官民一体となって取組んだ結果、約147年ぶりに復元されました。可能な限り史実に忠実に復元された御楼門は、新たな鹿児島島のシンボルとなるだけでなく、今後の歴史、文化、技術の継承にも寄与するものです。皆さんも是非、御楼門をご覧いただいて、その巨大さと技術を感じてみてください。御楼門が鹿児島島の歴史に興味をもつきっかけとなれば幸いです。そして、このような門を造った島津氏の歴史や、国内最後の内戦となった西南戦争など、黎明館で鹿児島島の歴史の歩みに触れてみませんか。



▲ 焼失前の御楼門「旧御本丸御楼門前之景」(部分)玉里島津家資料



青海波龍文 火事装束 [玉里島津家資料]

龍

中国で生まれた想像上の霊獣。万霊の長とされ、辟邪祈雨の霊力を持ちます。龍は水の中に棲み、雨を降らすべき頃に天空に登り、降雨をもたらすと信じられてきました。左の「火事装束」が、波をあらわす青海波文に龍で飾られているのは、水をもたらす龍の神力にあやかったのでしょう。

波

海路の無事や海からもたらされる幸を祈願する文様として、日本では平安時代から用いられてきました。青海波は江戸時代に流行し、この頃には海外から招来する福や宝をもたらす吉祥文様でもありました。

ある意味 生き物ワールド

蜻蛉

トンボは前にしか進まないことから「不退転」を意味し、肉食で害虫を食べるため、「勝虫(かちむし)」と呼ばれ、日本では縁起がよいとされてきました。特に武将に好まれ、武器などの装飾に多く見られます。



蓬莱山

蓬莱山は不老不死の仙人が住む中国発祥の伝説の山。松竹梅が茂り、空に鶴が舞い、海に亀が遊びます。右上の打掛は、まさに全体が蓬莱山の理想郷で飾られ、着る女性の幸福な人生を願った吉祥尽くしです。

蜻蛉文蒔絵印籠 [玉里島津家資料]



薩摩鐘 鉦豆図

鉦豆

くると曲がってもとに戻るように生えることから、無事に帰還するようにとの縁起をかつぎ、武将に好まれました。薩摩鐘にも多く用いられています。

文様尽

上から鐘豆(きよし)文、七宝文、英文、花菱文が描かれています。薩摩焼は、口や肩、腰がこうした割文様で飾られるのが常です。



蓑亀

亀は万年の寿命を保つ長寿の象徴とされ、なかでも長生きした亀は尾に海藻のついた姿であらわれます。その様子が蓑をかぶっているように見えることから蓑亀といわれます。亀は、日本では弥生時代からみられる文様です。



薩摩焼 錦手繫文酒器



松竹梅

四季を通じて緑を失わない松と竹、そして厳寒のなかで花を咲かせ、「百花のさきがけ」と言われる梅の組み合わせは、日本ではおなじみの吉祥文様です。中国では寒さに耐える高潔な精神をあらわす「歳寒三友」の名で呼ばれます。



薩摩系焼 高砂図



銅製龍形文鎖 [玉里島津家資料]

女性の着物は、吉祥尽くし



白繪子地松竹梅蓬萊文様打掛

貴人・武士から庶民まで

飾りに込めた想いと憧れ

にほんの飾り さつまの飾り

黎明館企画展

日本人の暮らしの場には床の間など飾るための空間が設けられ、歳時とともにさまざまに飾られてきました。身の回りを見渡しても、道具や家具、日用品に至るまで、あらゆるものに装飾が施され、人々の生活を豊かに彩ってきました。こうした装飾からは、文化を大陸から受容してきた歴史や自然に対する日本人特有の感性を読み取ることができます。また、特別な意味が込められたり、季節を感じさせる定型化した文様が数多くあり、それらは千年を超える時間のなかで育まれてきたものです。

本企画展では、黎明館に所蔵されている絵画や工芸品、武器、道具など幅広い分野の資料を装飾に着目して紹介し、図柄の意味やそこに込められた人々の想いを紹介します。なかでも、武の国と言われる薩摩で育まれ用いられた品々から、特徴的な“さつまの飾り”を集めて紹介します。

本企画展が、昔の人々の暮らしや想いを振り返る機会になるとともに、美術工芸品などの歴史的な文化財をより身近なものに感じ、楽しむきっかけにつながれば幸いです。

Japanese 'KAZARI' Satsuma's 'KAZARI'



万物に願いを込めて、幸福への祈りを飾りに託す

2020 6/16(火) - 8/30(日)

企画展関連プログラム

- 学芸講座(企画展解説講座)

「にほんの飾り・さつまの飾り—飾りに込められた意味を探る—」
7月18日(土) 13:30~15:00
講師:黎明館主任学芸専門員 深港恭子
会場:2階講堂(無料)
応募方法:往復ハガキにて事前申込み
応募期間:6月18日(木)~7月4日(土)(消印有効)
※詳しくは、黎明館ホームページをご確認ください。
- ワークショップ

「オリジナル文様でつくるエコバッグ」
8月8日(土) 13:00~15:30
会場:3階講座室
材料費:800円
募集人数:20名(小学4年生~一般)
応募方法:電話申込み(電話:099-222-5396)
応募期間:7月8日(水)~29日(水) ※先着順
- ギャラリートーク

6月27日(土)・7月25日(土)・8月22日(土)
13:30~ 40分程度
会場:3階企画展示室

しゅうき こうもり 鍾馗と蝙蝠

鍾馗は中国唐時代の玄宗皇帝の夢に出て、玄宗の病の原因だった小鬼を食べたと伝えられる魔除けのシンボルです。一方、蝙蝠の蝠の字は音が福と同じのため、招福をもたらす吉祥文様。剣をもつ鍾馗と蝙蝠をとりあわせた図は、辟邪と招福を同時に描いた吉祥図です。



鍾馗図 平山東岳筆

高砂

高砂図は、長寿を保ち幸せに添い添げる夫婦の愛情をあらわします。薩摩系焼は、女の子の健やかな成長と幸福を願って、桃の節句に飾られました。高砂は人々の生活に浸透した飾りのモチーフです。

学芸員「イチオシ」の
取組資料を紹介します。

黎明館に宇宙人襲来!?

いいえ、ご安心ください。これは、悪石島(あくせきじま)のボゼです。お椀型の真っ赤な目、赤土色と黒の縦縞模様、大きく開いた口、ピロウの葉に全身を覆われた姿は、展示場でも異彩を放っています。

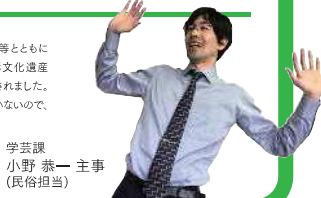
当館の民俗収蔵庫には数点のボゼの仮面が保管されていて、目が合ったりすると、怖いものです(笑)。展示場でこれを見て、たまに泣き叫ぶ子どももいますよ。

それもそのはず、ボゼは旧暦7月16日(盆の最終日)の夕刻、盆踊りの最中に現れ、手に持ったボゼマラ(棒)を振り回して、子どもや女性を追い回し、先端に付けた赤い泥を塗りつけようとするのですから。

この泥には、悪魔払いの御利益があり、泥を付けられた人は良運に恵まれると言われています。実は、ボゼは島の人々にとって邪気を祓ってくれるありがたい来訪神なのです。

ちなみに、ボゼの面は、テラと呼ばれる島の聖地で男性たちによって秘密裏に作られます。そして、使われた後は直ちに壊されるのです。仮面には霊力が宿ると考えられているからです。異形の姿だけでなく、仮面をおとして民俗行事の背景にある信仰や、その成り立ちにも目を向けてみると、また違ったボゼの顔に見えてきませんか。

悪石島のボゼは、硫黄島のメンドン等とともに平成30(2018)年にユネスコの無形文化遺産「来訪神・仮面・仮装の神々」に登録されました。展示資料には、塗り付けた泥は付いていないので、触らないでくださいね。



学芸員
小野 恭一 主事
(民俗担当)

常設展示2階
民俗部門の一番奥に潜り、
皆々をま待ちしています。

黎明館の歴史

- 昭和41年10月 明治百年記念事業委員会が設立(昭和44年3月まで)
- 昭和44年 4月 明治百年記念館建設調査室を設け
- 昭和56年 7月 建築工事に着手
- 昭和58年 1月 公募により「鹿児島県歴史資料センター黎明館」を選定
- 昭和58年 3月 建設工事、外構・造園工事を完了
- 昭和58年 4月 鹿児島県歴史資料センター黎明館発足
- 昭和58年10月 開館
- 平成 8年10月 リニューアルオープン
- 令和 元年 7月 一部リニューアルオープン
- 令和 2年 4月 名称を「鹿児島県歴史・美術センター黎明館」に変更

鹿児島県歴史資料センター黎明館は、令和2年4月1日から名称が変わりました。新名称は『鹿児島県歴史・美術センター黎明館』です。

鹿児島県の歴史や美術・工芸、民俗などをわかりやすく展示していきます。

愛称の『黎明館』は公募で決めた名前です!

黎明館は、鹿児島県民の共有の財産として創られ、県民の文化発展基盤の一つとして活用されることを願って、昭和58年1月に正式名称を公募で決めました。応募総数1166件の中から、最も多かった「黎明館」を愛称とし、性格・機能を示すものとして「歴史資料センター」をつけて、正式名称を「鹿児島県歴史資料センター黎明館」と決定しました。



館長あいさつ

皆様、こんにちは

皆様方には、新型コロナウイルスという「目に見えない敵」との地球規模の「戦争」が毎日続き、様々な不安や心配事など、心穏やかならぬ日々が続いていると思います。一日も早い収束をただただ祈るのみです。

このような不安定で不確定、先の見通せない時代であればこそ、明治百年を記念した事業の一環として昭和58年に開館した私も「黎明館」は、「夜明け」を意味する「黎明」という名に相応しい役割と機能を果たしていかなければと改めて強く感じております。

特に、幕末維新期をはじめ、鹿児島県のこれまでの史実の持つ実像とその意義を辿りながら、先人達の魂の遺産の息吹を次の世代に伝えたい。いくこと、そして、新しい時代の紡ぎに幾ばかりとも貢献していくことが、引き続き私も黎明館の果たすべき重要な役割だと考えております。

そのため、皆様方の視線に立った、「分かりやすく・楽しく・親しんで」いただける施設として、一人でも多くの県民の皆様方に、それぞれの視点や感性でそれぞれに感じ取っていただける、そんな気付きや驚き、感動を皆様方に伝えられるよう、昨年7月に常設展示のリニューアルを完了したほか、今年4月から「年間パスポート」の取扱いも始めたところです。また、このたび、「鹿児島(鶴丸)城御楼門」の復元が完成し、「社会教育の拠点」としてだけでなく「観光拠点」としての役割も大いに期待されているところでもあります。

新型コロナウイルスの影響で、皆様方それぞれに大変厳しい日々が続いていると思いますが、こういう時代だからこそ、黎明館としては、皆様方が少しでも心の安らぎを得られるよう、そんなひとときを安心して体感していただけるよう、今後とも様々なスタイルの情報発信に努めてまいりますと考えております。



館長 酒匂 淳

人事異動のお知らせ	転出者 (令和2年4月1日付)		
	職名	氏名	転出先・職名
	副館長(兼)総務課長	西川 秀和	退職
	総務課長補佐(兼)総務係長	山下 政治	退職
	専門員	田中 裕二	大口食肉衛生検査所業務課総務係長
	学芸課長	内倉 昭文	県立鹿児島農業高校教諭
	主任学芸専門員(兼)学芸課企画資料係長	吉井 秀一郎	県立古仁屋高校教頭
	文化振興課検門等建設推進室専門員(兼)黎明館	黒川 忠広	文化財課参事付埋蔵文化財調査センター調査課調査第三係長

転入者 (令和2年5月1日時点)	新職名		
	氏名	元所属・職名	
	副館長(兼)総務課長	赤間 広嗣	かごしま県民交流センター副館長
	総務課長補佐(兼)総務係長	今村 成人	土木部河川課主幹(兼)工事事務係長
	専門員	田尻 浩人	鹿児島地域振興局総務企画課総務労務係主査
	主任学芸専門員(兼)学芸課学芸調査係長	新福 大健	県立鹿児島南高校教諭
	学芸専門員	藤崎 公晴	県立伊集院高校教諭
	文化振興課検門等建設推進室主査(兼)黎明館(館内)	平 美典	文化財課埋蔵文化財調査文化財主事
	学芸課長	切原 勇人	主任学芸専門員(兼)学芸課学芸調査係長
	主任学芸専門員(兼)学芸課企画資料係長	上村 俊洋	学芸専門員

黎明館 NEWS

年間パスポート、はじめました。

長らくお待ちせました。日頃より、利用者のみならず「ぜひ欲しい」「早く作ってほしい」とのお声を頂戴しておりました『年間パスポート』。4月1日より、遂に販売を開始しました。年間パスポート担当として奔走した深港恭子主任学芸専門員によると、「持っていて嬉しい・使うのが楽しい」をコンセプトに、好きなデザインを選ぶようにしたところがこだわりだそう。黎明館にはたくさんの資料があるので、いくらでもデザインを作れる!と息巻いていたのですが、あまりにも膨大な数のため、選びきれなくなってしまい、職員で意見を出し合い、厳選した9種類(限定2種を含む)をお届けすることになりました。デザインの選定に苦労したようですが、豊富なラインナップは、多種多様な資料を収蔵している黎明館だからこそできたこと。

考古、歴史、民俗、美術・工芸と各分野から選び抜かれた「イチオシ」の中から、これだ! というものを「わくわくしながら選んでほしい」と、深港主任学芸専門員は話していました。パスポートは、購入日から1年間有効で、常設展示に何度でも入場することができます。広すぎて一日だけでは見きれなかった常設展示も、年に3~4回開催される企画展も、期間限定で展示される国宝・重要文化財等の展示も、これからはいつでも、何度でも、お楽しみいただけます。そして、これまで素通りしていた分野や、興味がなかった時代なども、これを機に見てみようかな、といった、新しい出会いのきっかけになれば幸いです。

さあ、年間パスポートを携えて、黎明館へ出かけませんか? 豊富な展示資料とともに、みなさまのお越しをお待ちしております。



御楼門完成記念限定デザインは5月29日まで!



料金:大人800円、高校・大学生500円、小・中学生300円 ※購入日から1年間有効